

## 「自分」の根幹

市役所に向かう途中で、横断歩道に向かってゆっくり歩く一人の男子高校生を見かけました。髪は長めで表情はよくわかりません。耳にはイヤホンが見えましたので、何かを聞きながら歩いていたのでしょう。いかにも今どきの高校生という感じでした。

私は横断歩道前で車を止めました。すると、彼の行動が一変しました。急に駆け足になり、横断歩道を足早に渡り切りました。そのまま真っすぐ行くだろうと思いきや、彼はくるっと向きをかえ、気をつけの姿勢をとり、私に向かって深々と一礼したのです。

正直言って、私は面食らってしまいました。勝手に抱いていた高校生のイメージとは全く違う行動をとった彼にびっくりしてしまいました。また、高校生の中にも、こちらが恐縮するぐらいの誠実な態度を示す子がいるのだと思うとうれしくもありました。

この高校生のように、止まってもらえたことを当たり前と考えず、常に謙虚な姿勢でドライバーに感謝できるのは北中生も同じです。毎日止まってくれた車に向かって丁寧に一礼する北中生の姿を見ると、いつまでもその誠実さをもってほしいと思います。しかし、これは非常に難しいことだとも思っています。

生徒の皆さんの中には、いずれは瑞浪を離れて、都会で進学や就職する人が多くいることでしょう。そうなった時、あなたの周りにいるほとんどの人たちは、「止まるのは当然」とでも言わんばかりの表情で、横断歩道をマイペースで渡ることでしょう。また、いろんな価値観をもった人たちと知り合いになり、中学時代にはあった素直さや謙虚さを見失ってしまうこともあるかもしれません。

そんな都会の雰囲気染まらないでほしいと私は思います。現在ののように、車に向かって丁寧に一礼することはできないにしても、待ってくれているドライバーのことを考え、せめて渡るスピードを速められる大人になってください。何歳になっても、止まってくれた車のことを気にかける、心の柔軟な人間でいてください。

義務教育の終了をきっかけとして、生活環境や人間関係が大きく変わります。それらがあなたにとって、よい結果をもたらすか悪い結果をもたらすかは、今の段階ではわかりません。周りがいくら変わっても、「自分」の根幹がしっかりしていれば、言動のどこかに相手を思いやる優しさが出るものだと思えます。今は、その根幹をしっかりとらせる時です。いつになっても、どこに行っても、だれと接してもブレない自分を作りましょうね！

(七月二日 記)